

# 新設備導入で高精度選別

事業効率化・労働環境改善も

## 単一素材化で価値を高める

ヤマダ電機グループの東金属(群馬県太田市、太田伸一社長、0276・56・1121)は今春、小型家電リサイクル工場に新たな設備を導入し、選別能力を強化した。調整期間を経て、4月から本格稼働を開始。小型家電を処理して回収できる素材をさらに細かく分離し、純度を高めて資源価値を引き上げた。また、自動コンベア装置の導入により検品業務の効率化や選別能力向上効果も見込めたため、事業全体の質が向上した。

### 選別の高度化

導入した選別機は、光学選別機と風力選別機、磁力選別機となっている。また、粗破砕と破砕の二段階処理の工程間に中間破砕機を導入。この半自動化

設備追加し、破砕品の一化を図った。それに加えて、再資源化処理をする前に受け入れ品の状態を確認する検品・手分解の工程で自動コンベア装置を導入。この半自動化

により、検品後の製品の移動を簡素化し、選別の高度化と業務の効率化を図った。

光学選別機は、カメラとAIで処理物の色や形状を認識し、ライン上で識別できる。現在、8種類の品目を選別でき、回収物の変化や、より高精度で回収すべき素材が見つかった場合にも対応でき、将来を見越した導入となっている。

風力選別機ではダスト成分を除去すること

で回収素材の単一化の精度がより高まった。また、労働環境改善にも効果が見込めるとしている。

### 自治体等と連携

今年度は、年間100万台の小型家電回収

を目標に定め、小型家電リサイクル事業の専門工場ならではの「回収素材の純度の高さ」を保持しながら、流通状況が変わる事態も想定し、事業のさらなる発展と継続のために対応を続ける。

今後は認定事業者として、自治体との連携を深めていく考えだ。

そのためには事業への理解が必要だと考え、

地域住民や行政関係者に小型家電リサイクル事業のことを周知するため、「見てもらう工場化」を図り、見学通路の設置など自社事業を紹介できるようにする予定。

### 小型家電リサイクル

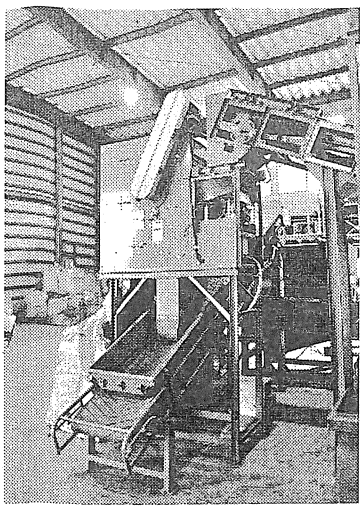
工場の隣では、同グループのリユース製品を取り扱うシー・アイ・シー(本社・群馬県高

崎市)が3000坪の新拠点「東日本物流センター」を2月から稼働している。リユース品の物流効率を向上させ、環境負荷をより低減しながら、モノを無駄なく循環させるスキームを整えた。

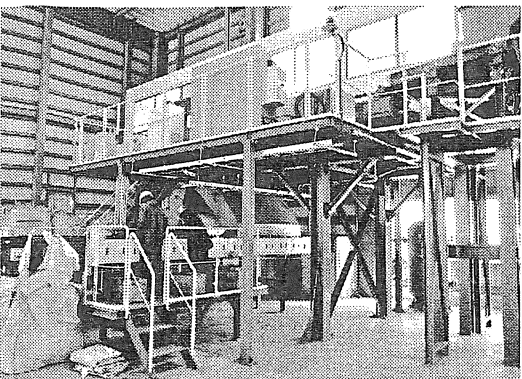
### 宮下徹専務取締役

は、「ヤマダ電機は、家電の販売からリユース、リサイクルまでを

一元的に担い、一括管理できるモノの流れをグループ内で完結している。また、環境に優しい事業を積極的に取り組んでいるため、グループとして私どもは再資源化事業に集中することができると責任を果たせるような、業界のトップランナーでありたい」と述べた。



ダストを除去する風力選別機



光学選別機と手選別で高純度化



シー・アイ・シー東日本物流センター